

第35回

'24選抜女子駅伝
北九州大会

- 期 日 / 2024年1月21日 (日)
 - コース / 小倉北区・小倉城歴史の道一
八幡東区・前田二丁目西交差点
折り返し 27.2km
- 一般の部 5区間 高校の部 6区間



立命館宇治のアンカー・大西桃花(右)を猛追する肥後銀行のアンカー・酒井美玖

一般の部

肥後銀行、初V アンカー酒井、快走逆転

肥後銀行のアンカーを任されたエース・酒井美玖がたすきを受けた時点で、先行する京セラとの差は42秒。逆転できるか微妙な差だったが「酒井は時々想像の上を行ってくれる」と渡辺重治監督が期待した通りの走りを見せ、初優勝を飾った。

北九州市立高時代に全国高校駅伝1区で区間賞に輝いた実力者は、前半は抑えて自分のペースを作ると、後半に仕掛けた。8キロ付近で京セラをかわして一般の部のトップに立ち、高校時代に練習で知り尽くしたコースをフィニッシュまで駆け抜けた。

チームは2023年10月にあった全日本実業団対抗女子駅伝「クイーンズ駅伝」の予選会「プリンセス駅伝」で1区の選手が故障で途中棄権し、全日本の出場を逃した。気持ちを切り替えて練習を重ねる中、優勝を目指して臨んだ選抜女子駅伝で着実に力を伸ばしていることを証明した。

創部13年目のチームにとって、悲願だった駅伝での初タイトル。21歳の酒井はケニアで現地選手と共に合宿するなど経験を積んでいる。結婚、出産を経て昨夏加入した南雲栞理は1区で2位と流れを作り、頼もしい存在だ。今大会の優勝を弾みに、全国の上位で戦えるチームへと成長していく決意だ。

渡辺重治・肥後銀行監督「駅伝で勝つということがチームにとって初めての経験。クイーンズ駅伝の8位以内を目指していきたい」



肥後銀行の南雲栞理(中央)ら1区を力走する選手たち

高校の部

神村学園連覇 トップ譲らず大会新

神村学園は2区のカリバ・カロラインがトップに立つと、その後は一度も先頭を譲ることなくフィニッシュ。1時間27分54秒の大会新記録で2年連続5回目の優勝を飾り、一般を含めた全体でも1位となった。一般の部の最終区(10.4キロ)を高校生は2人で分けて走るとはいえ、一般の部より先着して高校の部のチームが優勝するのは大会史上4度目の快挙だ。

立命館宇治にじりじりと追い上げられ、最終6区にたすきが渡った時点で神村学園のリードは14秒にまで縮まっていた。有川哲蔵監督も「負けたかな」と連覇を諦めかけたが、全国高校駅伝で1区を任された1年生の瀬戸口凜が区間賞の快走で見事に逃げ切った。

チーム全体の底上げを課題としていた神村学園。今大会はカリバが2区で区間新をマークして一気にトップに立つと、3区では瀬戸口と同じ1年生の野口紗喜音が区間2位と好走。立命館宇治のエースに4秒しか詰められなかったことも勝因となり、チームの成長を感じさせる大会連覇となった。

有川哲蔵・神村学園監督「勝った経験で自信をつけながら育成していきたい」



高校の部 1位でフィニッシュする神村学園のアンカー、瀬戸口凜